

研修と実践をつなげる研修スタイルについて

1 概要等

幼稚園教諭・保育士等を対象とした研修の実施に当たっては、研修の目的や養成すべき資質・能力を明確にすることで、主体的に学び続けられるような研修とすることが必要である。

また、幼稚園教諭・保育士等が研修と実践を適切に組み合わせながら学べるような研修スタイルとすることが重要である。

今後、幼稚園教諭・保育士等が成長の段階ごとに身に付けるべき資質・能力を確認するための指標として策定した「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」（以下、「必要となる力」という。）を活用して、それぞれが実施する研修の対象や当該研修で身に付けられる力を明確にすることとしているが、研修の実施形態については、各団体や各研修の実情に応じて様々である。そのため、今後は幼稚園教諭・保育士等が研修と実践のつながりを確認しながら学び続けられる研修スタイルについて検討することとし、当意見交換会で協議することとしたい。

2 研修スタイルの検討

各団体における幼稚園教諭・保育士等の主な研修には、自園の公開保育や園内研修などの職場内研修、他園の公開保育や所属団体等が主催する研修で学ぶ外部研修等があり、保育実践の公開及び参観、同僚や他園の職員との協議、研修講師等による講演などにより、幼稚園教諭・保育士等は必要な知識や技能を獲得し、実践力の向上を図っている。

このような職場内研修や外部研修で学んだ内容を実践し、その振り返りの中で、新たに身に付けたい知識や技術を明確にした上で次の研修に臨むことが重要である。このことから、幼稚園教諭・保育士等にとって、研修がより実践につながるものとするための、研修の形態や実施手法等についてご意見をいただきたい。

【研修と実践のつながりのイメージ】

